

「一流になりなさい。それには、一流だと思ひ込むことだ」という本からです
人間の DNA には 2 つの特性がある、自分が一番大事、そして嫉妬心をもつという特性だ

人間は、どんな動物よりも強い自己保存本能をもちます。自分が生き残るためには、あらゆる手段をとります。しかも、それが自己顕示欲とからみ合うと、より強烈な本能へと高まります。

食べ物を奪うために、平気で人を殺す存在ですし、性欲のために人を殺す事すら稀ではありません。また、嫉妬心がそこに連なれば、もはやどんな残酷な行為でも、驚くほどあっさりで行ってしまいます。

動物の世界は理屈や論理で動いているわけではありません。しかし、最初から殺すつもりで相手を襲うことは同族の間ではありません。その点において、確かに人間ほど残酷な生き物はいないと思います。しかし、その人間は、あらゆる動物で唯一、その自己保存本能を圧縮できるのです。線路に落ちた知らぬ人を助けようと、迫る電車の前に飛びおる。そんな行為を、どんな動物でもすることはありません。まさに人間だけの行為なのです。

人間の自己保存本能をギュッと圧縮して、空いた部分を道徳というのだといわれます。そして、人としての成長は、この道徳という部分を少しでも広げることでもあるのだと、船井先生に教えられます。「自分が一番大事、そして人を嫉妬する心をどれだけ小さくできるか？それは、自分の正しい生き方に直結するものなんだよ」ホテルの部屋をちゃんと掃除しなさい。新幹線を降りるときは、すべてのゴミを持って出るんだぞと語ったあと、船井先生は必ず若手にそう伝えます。人間は確かにエゴ的存在なのですが、そのエゴを意識して抑えられるのも人間だからなのです。人は誰でも、多くの人に好かれ、いきいきとした日々を多くの仲間と過ごしたいと、望みます。マザーテレサは、この世の一番の悲しみを、誰にも必要とされない自分を発見することだと言いました。誰でも、誰かに必要とされ、ありがとうと、感謝されて過ごしたいのです。私たちはその手段として、生活をしながら多くの人と知り合い、仕事を通じて多くの人にありがとうと言われるべく働くのです。「いまの君はね、君がなりたかった自分なんだよ。なりたい自分を想像してイメージ化してごらん。そして、そんな自分になると、確信するんだ」あるセミナーで、若手経営者が誰にでも好かれる自分でありたいのだが、と質問したときの答えです。「こうなりたい自分を描く。それは誰にでもできるよな。あとはイメージ化して理想どおり振る舞えばいいんだ」帰りの車のなかで、船井先生はそう私に語ってくれました。誰でも、明るくて、前向きで、一所懸命で、可愛くて、そしてしっかりした人だと思われたいものです。なら、そう自分で表現したらいいのです。明るく。いまのあなたの声を、人と話すときは三音くらい上げて話してみてください。明るい声音になるはずです。前向きに。誰かの話を聞くと、相手の目を見てうなずきながら、話を聞いてみてください。

いつも前向きな、そして一所懸命な人だと思われるはず。しっかりと人。必ず相手の話はメモをとりながら聞いてみてください。しっかりと、信頼に足る人だと思われるでしょう。要は、いまのあなたは、あなたが演じてきた、あなたのなりたかったあなたなのです。なりたい自分をイメージ化して、そのように行動すれば、なりたい自分になれるはず。好かれることが、人生のなかで成功する鍵だよ。そのためには DNA の二大特性、自分が一番大事という思い、そして嫉妬心を薄めることだ。いつも船井先生が言っていたことは、どうしても人間が引っぱられる二大特性から離れるためのクセづけなのです。それは、人から好かれるためでもあります。「なかなかできなくても。落ち込むことはないよ。人間はね、そんなものなんだからね」人間研究者としての真骨頂です。

マザーテレサはこの世の一番の悲しみを何と言っていますか？

()